



団体から活動内容の説明を受ける学生ら＝つくば市吾妻の筑波学院大

筑波学院大

協力38団体と学生対面

社会参加型授業で説明会

つくば市吾妻の筑波学院大学（大島愼子学長）で18日、社会参加型授業「オフ・キャンパス・プログラム」(略称OCP)の学生受け入れ協力団体による今年度合同説明会が行われ、市内や近隣を中心に38の団体・プロジェクトが参加した。対象の2年生約115人は

担当者らに話を直接聞いて、活動希望の参考にした。OCPで学生はイベント運営、ボランティア

ア、企業体験などの広い分野から、興味などに応じて活動する。合同説明会には70ある協力団体のうち、都合のついた団体がブース出展。学生は具体的な活動内容を尋ねたり、メモを取ったりしながらブースを巡った。

同大2年の荻沼薫礼さん(19)は「どれもおもしろそう。やってみたいと思うものもあって、とてもよかった」と話していた。

企業団体などで行くつくばセンター地区活性化協議会の活動では、学生が冬の街を彩るランタンアートの準備・運営に携わる。昨年は学生企画も行い、協議会事務局では「単に活動に参加するだけでなく、自分たちのまちづくりの企画も出しながら取り組んでほしい」と期待を示した。今後、希望調査や面談などを経てそれぞれ活動に入る。「つくば市をキャンパスに」を掲げる同大独自のOCPは12年目。

(橋本ひとみ)